

学年・教科・担当者	1 年 社会科 中村 亜紀
-----------	---------------

学期	月	学習内容	学習のねらい
1	4	【地理的分野】 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の六つの州と主な国の位置や名称や、緯度と経度のしくみを理解したり、地図帳のさくいんや統計資料から活用したりすることができる。 ・国名や国旗、国境線の特色から、その国の歴史や文化がわかることや、さまざまな種類の世界地図の特色を考察することができる。 ・地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究することができる。
	5	第2章 日本の姿 第2部 世界の様々な地域 第1章 人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界の中での日本の位置を示したり、日本と各地との時差を計算し自国を求めたりすることができる。 ・世界の中での日本の位置や広がりや、日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察することができる。 ・世界の中での日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究、解決しようとしている。 ・世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連づけて理解することができる。
	6	第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 第2節 ヨーロッパ州	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な自然環境や文化、産業がみられるアジア州について、地域ごとにその特色を理解し、地域間の違いからアジア州全体の地域的特色を理解することができる。 ・アジア州の国々が急激な経済発展をしている理由を、人口増加や他地域との結びつきなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・急激な人口増加と経済発展が、アジア州に暮らす人々に与える影響や、それによって生じる課題を主体的に追究しようとしている。 ・ヨーロッパ州の地域的特色を自然環境、文化、産業の特色に着目して大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解することができる。 ・国同士や他地域との結びつきに着目して、EU統合の背景と課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及びEU統合や文化の多様性に関わる課題を主体的に追究しようとしている。

	7	第3節 アフリカ州 第2節 北アメリカ州	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の人々の生活や産業の特色を理解し、アフリカ諸国とヨーロッパ諸国との文化や経済的な関係を、資料を用いながら歴史的背景を踏まえて理解している。 ・輸出品が特定の農産物や鉱産資源に偏るようになった原因を追究し、その問題点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ヨーロッパ諸国との関係やモノカルチャー経済に着目しながら、アフリカ州の地域的特色への関心を高め、問題の解決を主体的に追究しようとしている。 ・世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。 ・北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活を基に、多面的・多角的に考察している。 ・世界に大きな影響を与えている北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。
2	9	第4節 北アメリカ州 第5節 南アメリカ州 第6節 オセアニア州	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長を理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを、本文や資料から調べ、まとめている。 ・ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯林の減少の背景を関連づけて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察している。 ・近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発による環境問題について主体的に追究しようとしている。
	10	第6節 オセアニア州 【歴史的分野】 第1部 歴史のとらえ方と調べ方 第2部 第1章 古代国家の成立と東アジア 第1節 人類の登場から文明の発生へ 第2節 東アジアの中の倭	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結びつく産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。 ・オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国々と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。 ・オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究している。 <p>【歴史】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解し、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの

		<p>技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して文明や宗教の特徴を比較して考察し、世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に築いた諸文明には、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりなど発展、都市や巨大建造物、身分の分化などの共通する特徴があることに気付くことができる。 ・ギリシャ・ローマ文明の政治制度について、現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解する。 ・日本列島において狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや、自然崇拜や農耕儀礼などに基づく信仰が後の時代にもつながっていることに気付くことができる。 ・古墳の大きさやその分布を基に、ヤマト王権の勢力の広がりやそれを大きく捉えさせ、東アジアとの関わりについては、大陸から移住してきた人々が日本社会や文化に果たした役割に気付くことができる。
1 1	<p>第3節 中国にならった国家づくり</p> <p>第4節 発展する天皇・貴族の政治</p> <p>第2章 武家政権の成長と東アジア</p> <p>第1節 武士の世の始まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を大きく捉えさせ、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解する。 ・大陸方もたらされた仏教が、日本の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気付かせ、国際的な要素を持った文化が栄えたことを理解する。 ・摂関政治を基に平安京における貴族の政治の特色を捉える。 ・東アジアの情勢の変化によって、日本でも政治と文化において独自の動きが見られるようになったことに気付くことができる。 ・日本独自のかな文化が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気付かせ、文化の国風化が進んだことを理解する。 ・武士が台頭してきた理由を、土地の所有や権利などをめぐる社会の変化から考察することができる。 ・地方の反乱を鎮めることを通し、武士団が成長し自立していったことを理解する。
1 2	<p>第2節 武家政権の内と外</p> <p>第3節 人々の結び付きが強まる社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元寇がユーラシアの変化の中で起こったことなど、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解する。 ・南北朝の騒乱の中で室町幕府が成立し、武家社会が次第に大きな力を持っていったこと、日明貿易で銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことに気付くことはできる。 ・農業や諸産業の発達や畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立が当時の社会の大

			<p>きな変化であることや、それに伴って商品流通が活発化したことに気付くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことを理解させ、この時代の文化の中に現代に結びつくものが見られることに気付くことができる。 ・各地に戦乱が広まる中で戦国大名が登場し、自らの領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことや、下克上の風潮など、社会全体が大きく変化していったことに気付くことができる。
3	1	<p>第3章 武家政権の展開と世界の動き 第1節 大航海によって結びつく世界 第2節 戦乱から全国統一へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガルやキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつくられたことを理解する。 ・織田信長が行った仏教勢力への圧力や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気付くことができる。 ・当時の対外関係として、東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などがあったことを取り上げる。 ・南蛮貿易が取り入れられる一方、生活にへ座した文化が広がり、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華・絢爛な文化が生み出されたことに気付くことができる。
	2	<p>第3節 武士による全国支配の完成 第4節 天下泰平の世の中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現する。 ・江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付くことができる。 ・身分制のもとで人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことなどに気付くことができる。 ・農林水産業や手工業、商業などの産業や河川・海上交通、街道が発達したことについて、身近な地域の特徴を生かした事例を選んで理解する。 ・藩校や寺子屋などの普及に着目して、人々の教育への関心の高まりに気付くとともに、学問・芸術・芸能などの地域的広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解する。 ・近世の文化について、大阪、京都、江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解する。

3	第5節 社会の変化と幕府の 対策	<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などを踏まえ、近世社会の基礎が動揺していったことに気付くことができる。 ・外国船の接近とそれに対応した幕府による北方の調査や打払令などを取り上げる。 ・財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革を取り上げ、百姓一揆などに結び付く農村の変化や、商業の発達などへの対応というねらいがあったことに気付くことができる。 ・蘭学や国学などの中に新しい時代を切り開く動きがみられたことに気付くことができる。
---	---------------------	--

評価について	
評価の観点	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">・小テスト <li style="margin-right: 10px;">・定期テスト ・課題
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">・定期テスト <li style="margin-right: 10px;">・課題 ・発表
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">・授業態度 <li style="margin-right: 10px;">・忘れ物 ・課題